




2026年9月期第2四半期

# 決算説明資料

2026年5月13日

株式会社ジェノバ  
東証グロース市場 5570



A collage of five diamond-shaped images: 1. A cityscape with a glowing blue network of lines connecting various points. 2. A construction site with a crane and a yellow drone flying in the sky. 3. A satellite in orbit above Earth's cloud-covered surface. 4. A yellow excavator working on a construction site. 5. A white, futuristic autonomous vehicle driving on a city street.

# 1 会社概要

# 2 2026年9月期第2四半期 決算報告

# 3 通期業績予想

## Appendix

# 4 事業構造

# 5 ジェノバ5つの強み

# 6 成長戦略

# 位置情報補正技術のパイオニアとして、知見と信頼を蓄積し 安心・安全な社会づくりを支える高精度位置情報データカンパニーです

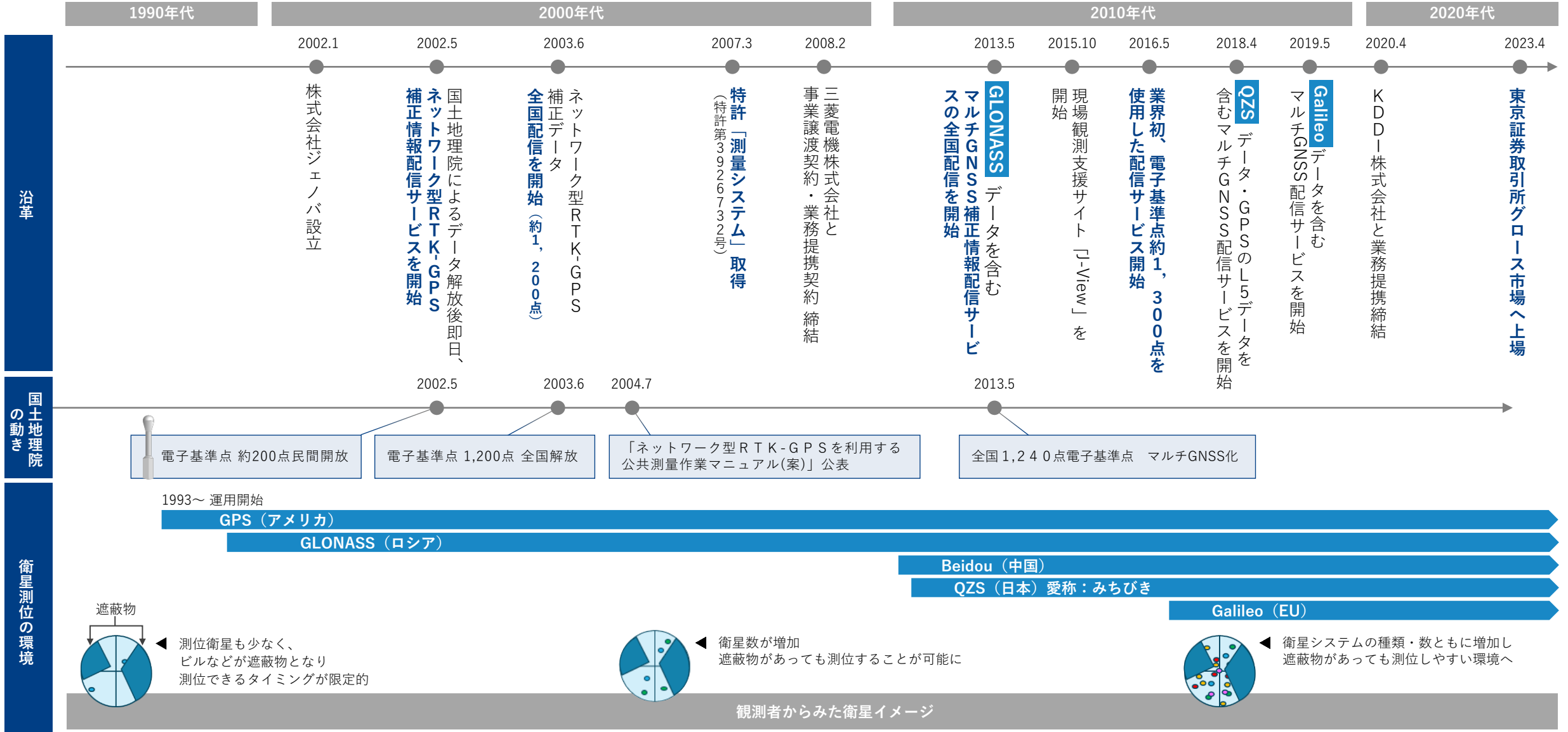
会社名	株式会社ジェノバ			
証券コード	5570			
設立	2002年 1 月			
本社所在地	東京都千代田区神田須田町一丁目34番地 4			
事業内容	GNSS 補正情報配信サービス等			
役員	代表取締役社長	戸上 敏	監査役	菅原 光一
	取締役	細谷 素之	社外監査役	大鹿 博文 (税理士)
	社外取締役	長尾 隆史 (弁護士)	社外監査役	野地 博久 (公認会計士)
資本金	5億1,084万円			
発行済株式総数	14,839,000株			
従業員数	17名 (臨時雇用者 1 名含む)			
決算月	9 月決算			
2025年 9 月期業績 (前事業年度)	売上高	: 1,366 百万円	経常利益率	: 57.3%
	経常利益	: 782 百万円	当期純利益率	: 39.7%
	当期純利益	: 542 百万円		

## Mission

高品質な位置情報の提供により  
安心・安全な社会づくりに貢献する

## Vision

リアルタイムかつ高精度な  
位置情報サービスで事業を拡大する。



A collage of five diamond-shaped images arranged in a vertical column on the left side of the page. From top to bottom: 1. A cityscape with a network of glowing blue lines connecting various points, representing technology or infrastructure. 2. A construction site with a yellow crane and a building under construction. 3. A satellite in orbit above Earth, with solar panels extended. 4. A white autonomous vehicle driving on a city street. 5. A yellow excavator working on a construction site.

1 会社概要

2 2026年9月期第2四半期 決算報告

3 通期業績予想

Appendix

4 事業構造

5 ジェノバ5つの強み

6 成長戦略

## 市場環境

政府の国土強靱化政策による全国規模での対策と予算増、デジタルライフライン全国総合整備計画においてのインフラ管理DX普及戦略、いわゆるスマート農業法の施行、災害における復旧・復興需要など、高精度位置情報を必要とする衛星測位分野のビジネス環境は引き続き需要の高い状況が継続している。

## 業績

売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益は全てQ 2 過去最高。売上高は、ほぼ期初に開示した業績予想数値通りの着地。営業利益、経常利益、四半期純利益は予想を上回っての着地。測量分野における安定的な利用需要の積み上げ、省人化ニーズが強く社会問題化しているICT土木・IT農業分野も成長継続。災害復興需要、コメの生産効率化に対応するニーズ、その他にも、HPの利用事例にて紹介しているとおり、裾野の拡大が徐々に顕在化してきている。

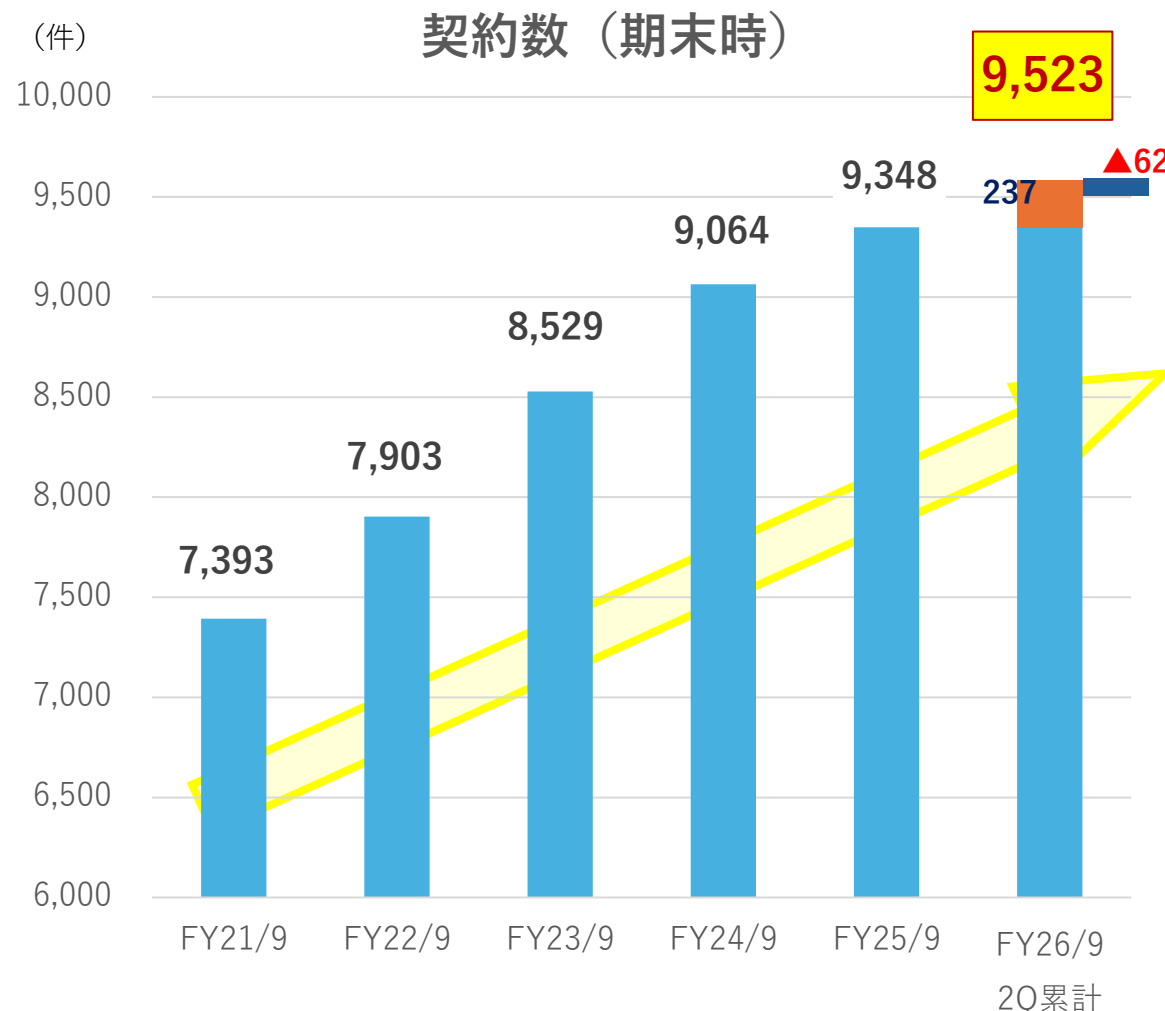
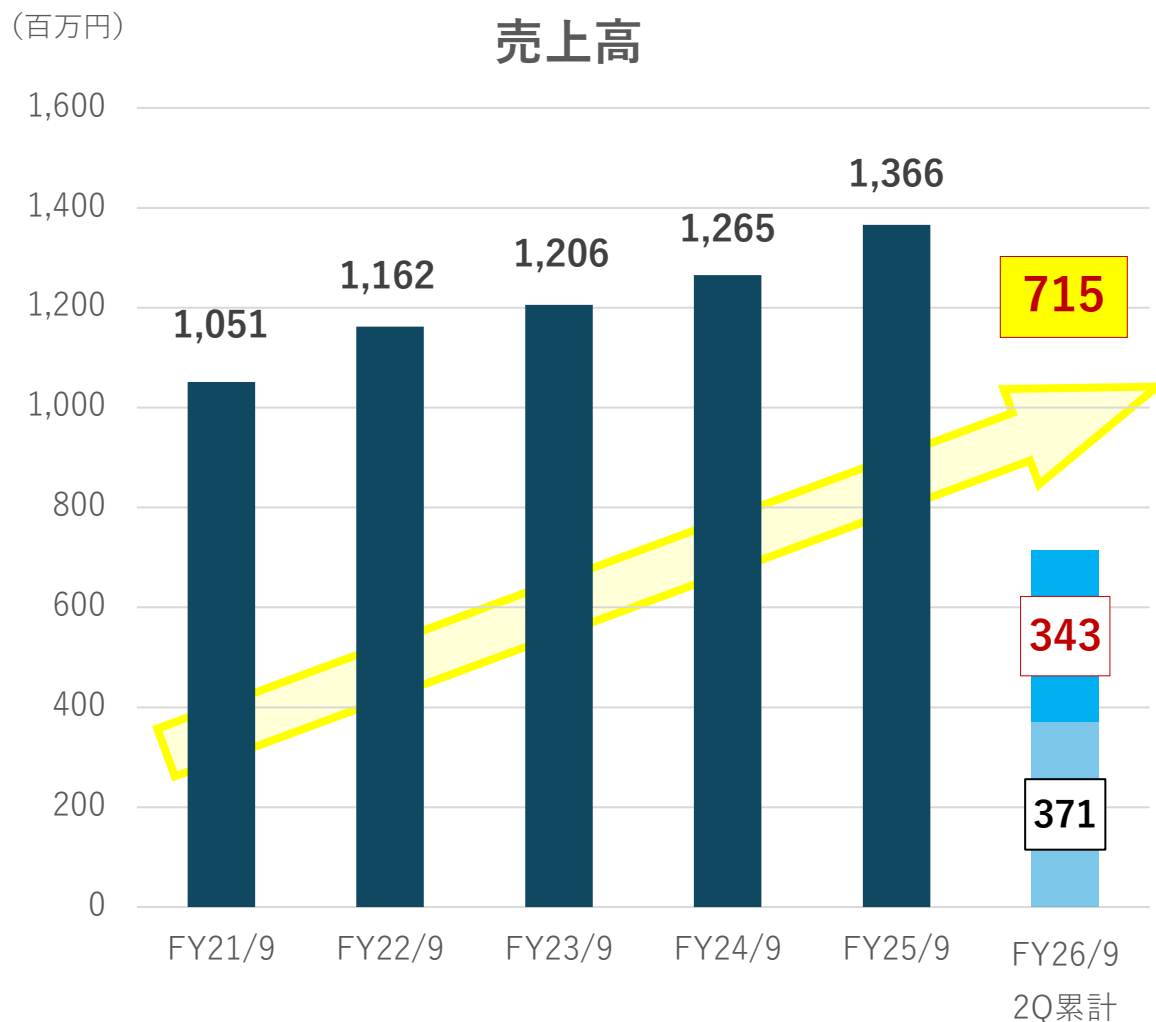
## 見通し

- ・業績予想（2026年9月期）：Q 2において業績予想の修正は行わないが、  
期末に向かって増収増益で推移するトレンドが継続することを想定。
- ・増配予定 7円00銭（前期比+1円00銭）：Q 2において期初予想からの変更なし。
- ・中東情勢の緊迫化等に伴う業績への直接的な影響は見受けられないが、間接的視点は注視。

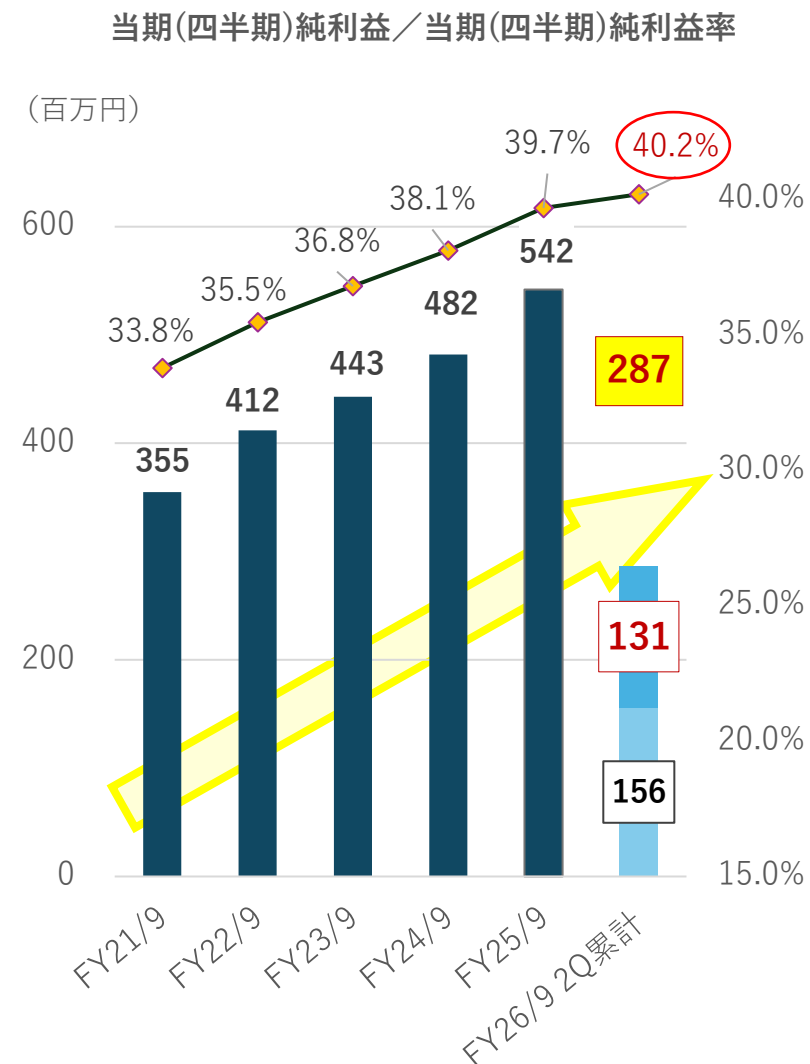
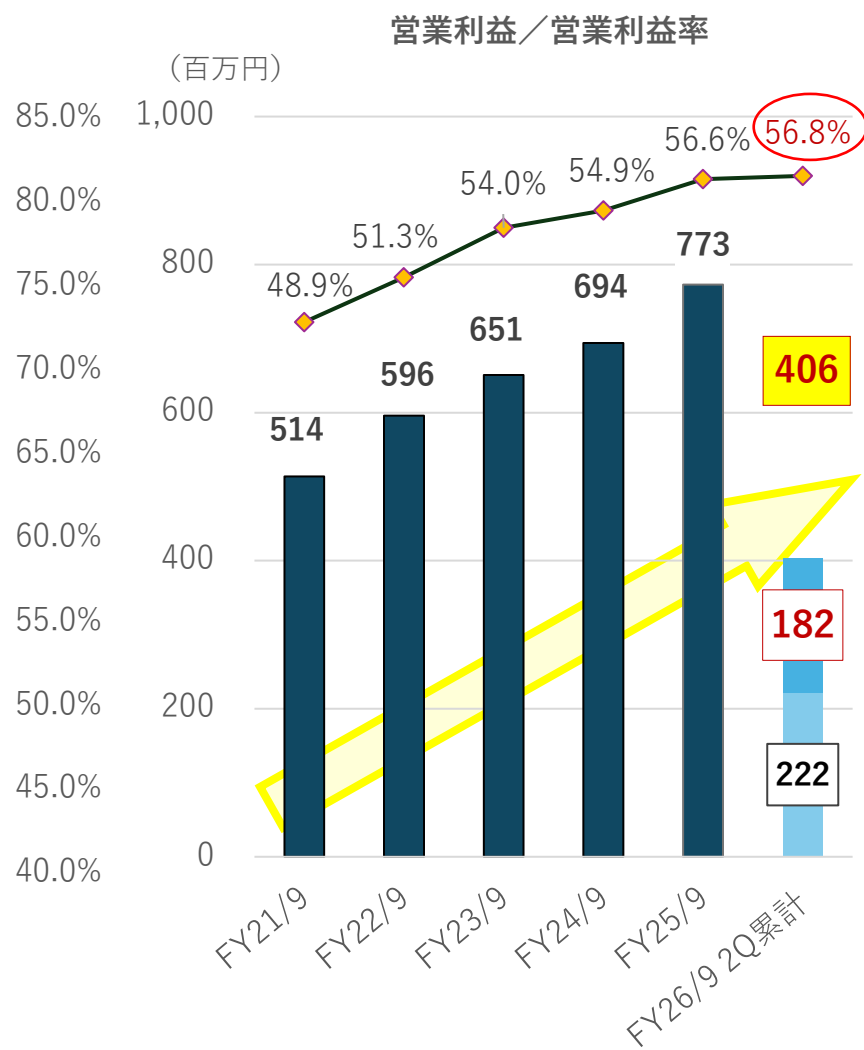
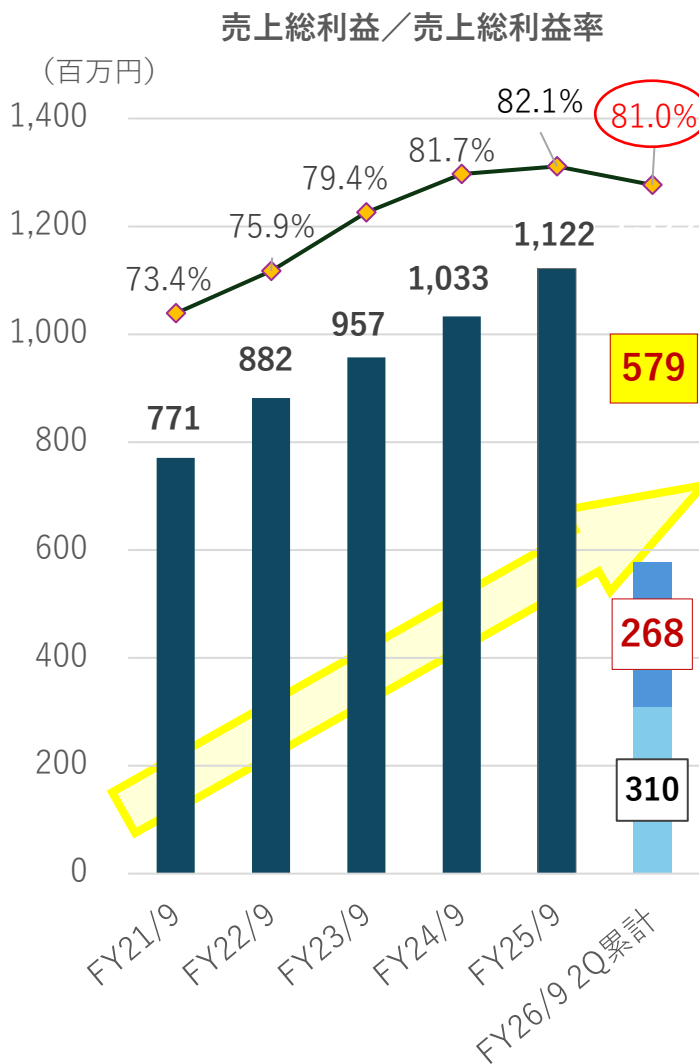
	FY25/9 q2	FY26/9 q2 (実績)			FY26/9 通期計画	
(単位：百万円)		前年同期比		FY26/9 q2計画	計画比	進捗率
売上高	<u>682</u>	<u>715</u>	+4.9%	<u>714</u>	+0.2%	<u>1,433</u> 49.9%
売上総利益	<u>570</u>	<u>579</u>	+1.7%			
(売上総利益率)	(83.5%)	(81.0%)				
営業利益	<u>393</u>	<u>406</u>	+3.3%	<u>402</u>	+0.9%	<u>779</u> 52.1%
(営業利益率)	(57.6%)	(56.8%)		(56.4%)		(54.4%)
経常利益	<u>397</u>	<u>415</u>	+4.3%	<u>410</u>	+1.1%	<u>793</u> 52.3%
(経常利益率)	(58.3%)	(58.0%)		(57.5%)		(55.4%)
四半期(当期)純利益	<u>276</u>	<u>287</u>	+4.2%	<u>285</u>	+0.7%	<u>543</u> 52.9%
(四半期(当期)純利益率)	(40.4%)	(40.2%)		(40.0%)		(38.0%)
1株当たり四半期(当期)純利益	20円19銭	21円74銭		21円59銭	+0.7%	41円07銭 52.9%

✓ 年間の売上高は、FY16/9 から**10期連続過去最高を更新中**。当Q 2時点も順調に推移しています。 ※FY16/9(年間)売上高：530百万円  
 ✓ 契約数は、当Q 1からは減少しておりますが、IT農業分野での利用アカウントが増加してきた影響によります。

※ 前々年同期および前年同期と同じ現象が生じておりますが利用シーズンになれば回復いたします。それだけIT農業分野のお客様が増加している証拠になります。

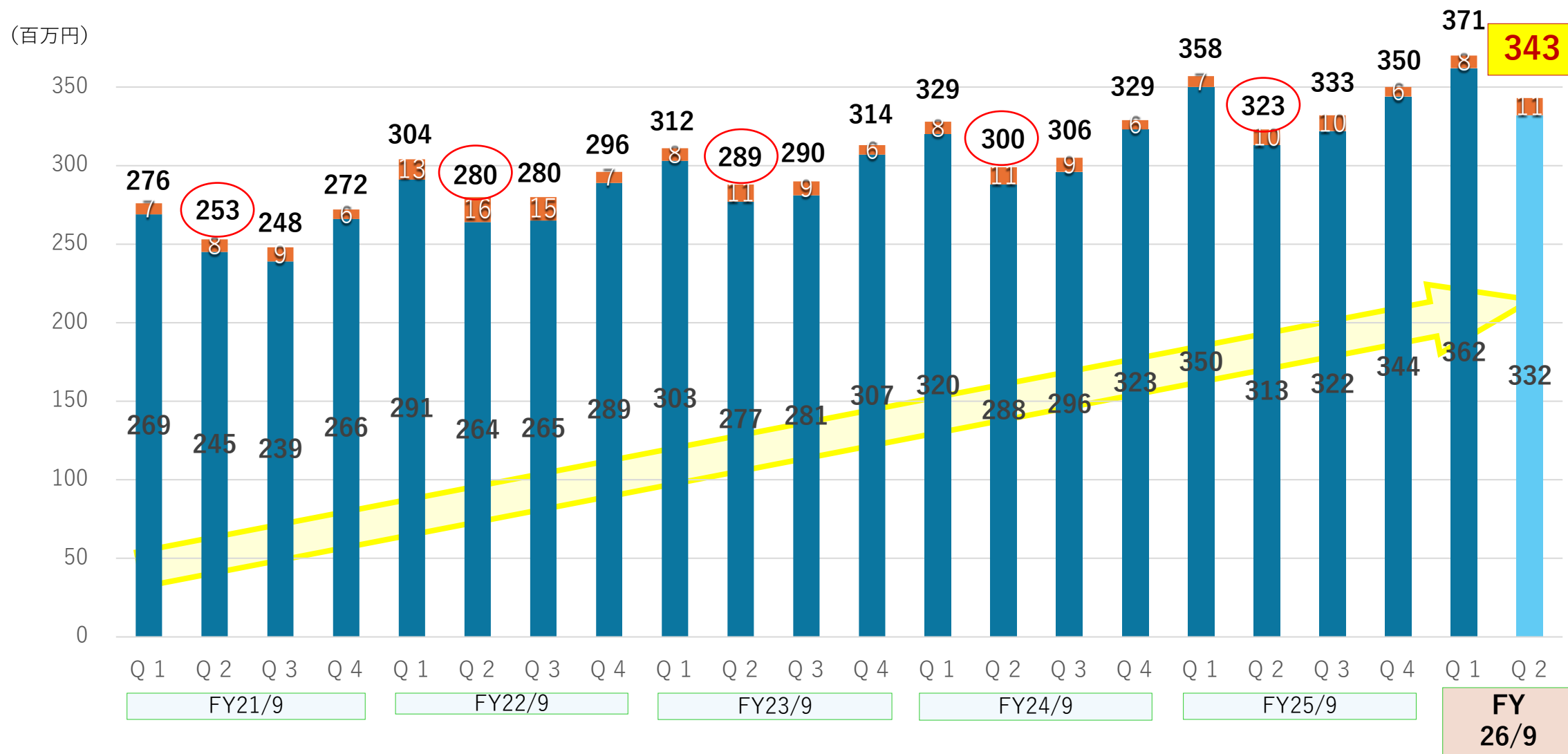


- ✓ 売上総利益、営業利益、純利益ともに、Q2過去最高と、予想を上回るペースで進捗しています。
- ✓ Q2も高い利益率を維持。売上総利益率は81.0%、営業利益率は56.8%、四半期純利益率は40.2%となりました。



# 売上高（四半期）の推移（過年度5ヵ年+当事業年度）

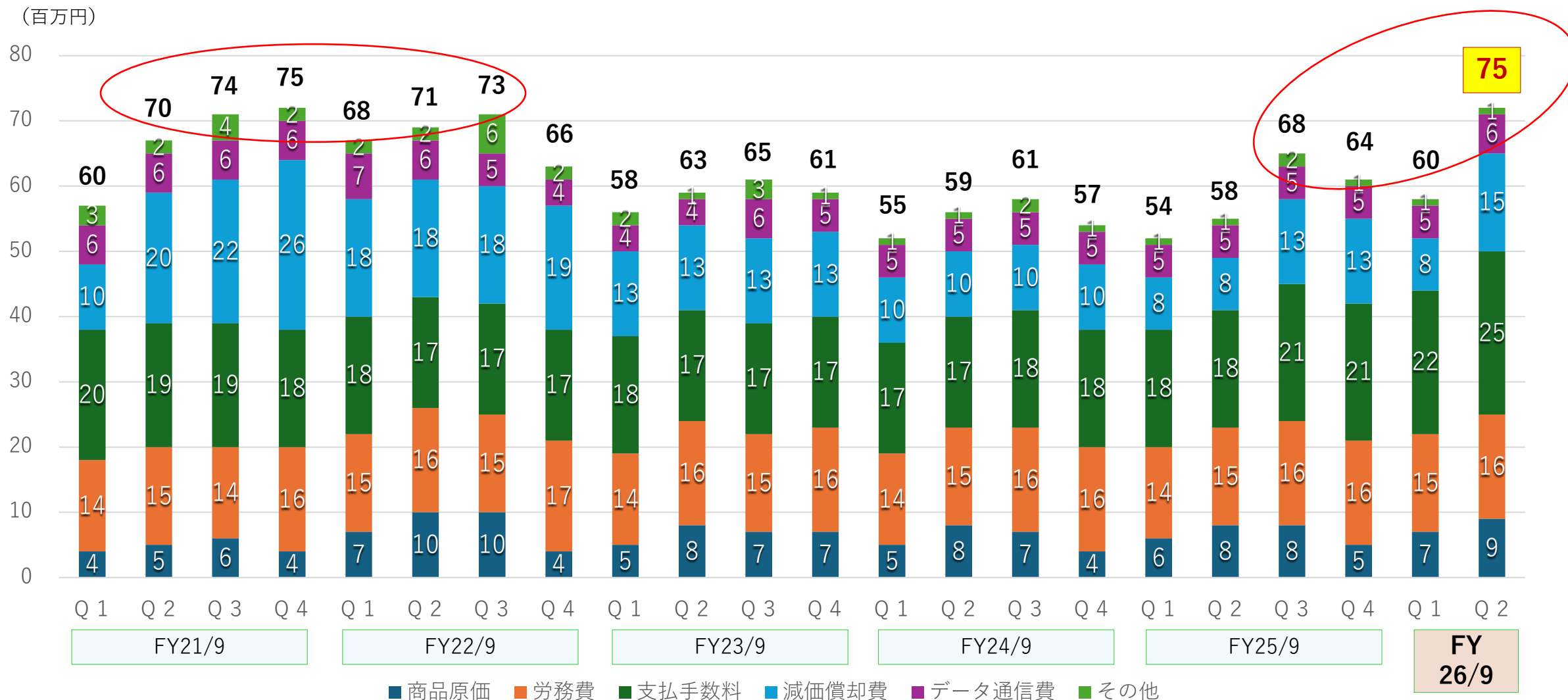
- ✓売上高は、四半期毎の季節変動要因を受けながらも右肩上がり続けており、今後もこの傾向は続くと考えています。
- ✓当Q2も前年同四半期を上回り、第2四半期（会計期間）において、過去最高の売上高となりました。



■ データ通信サービス ■ 通信機器販売

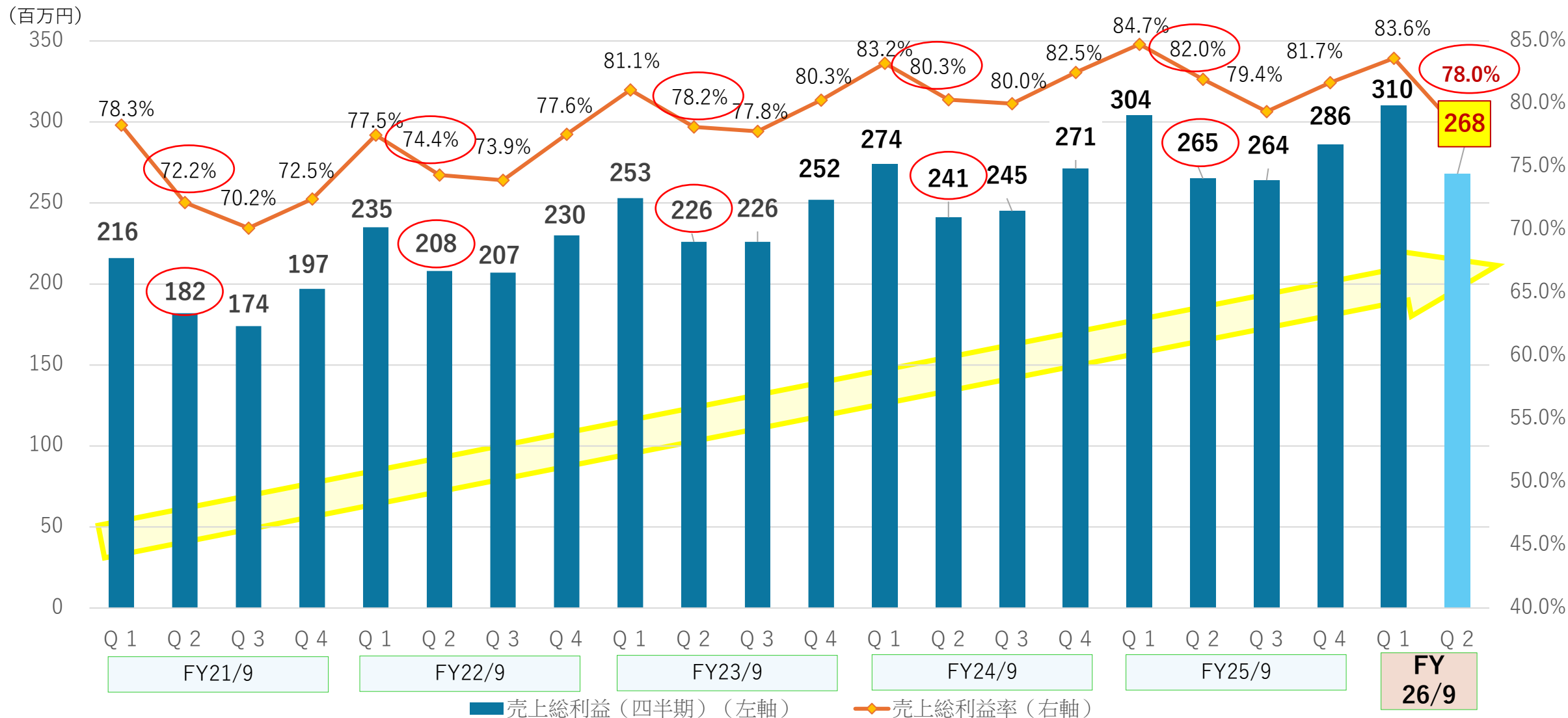
# 売上原価（四半期）の推移（過年度5ヵ年+当事業年度）

- ✓現在の当社のビジネスモデルは、売上高の上昇に売上原価は比例しません。
- ✓サーバーの増強（設備投資）などにより売上原価が増加する場合があります（ex. FY21/9 & 22/9、25/9 & 26/9）。



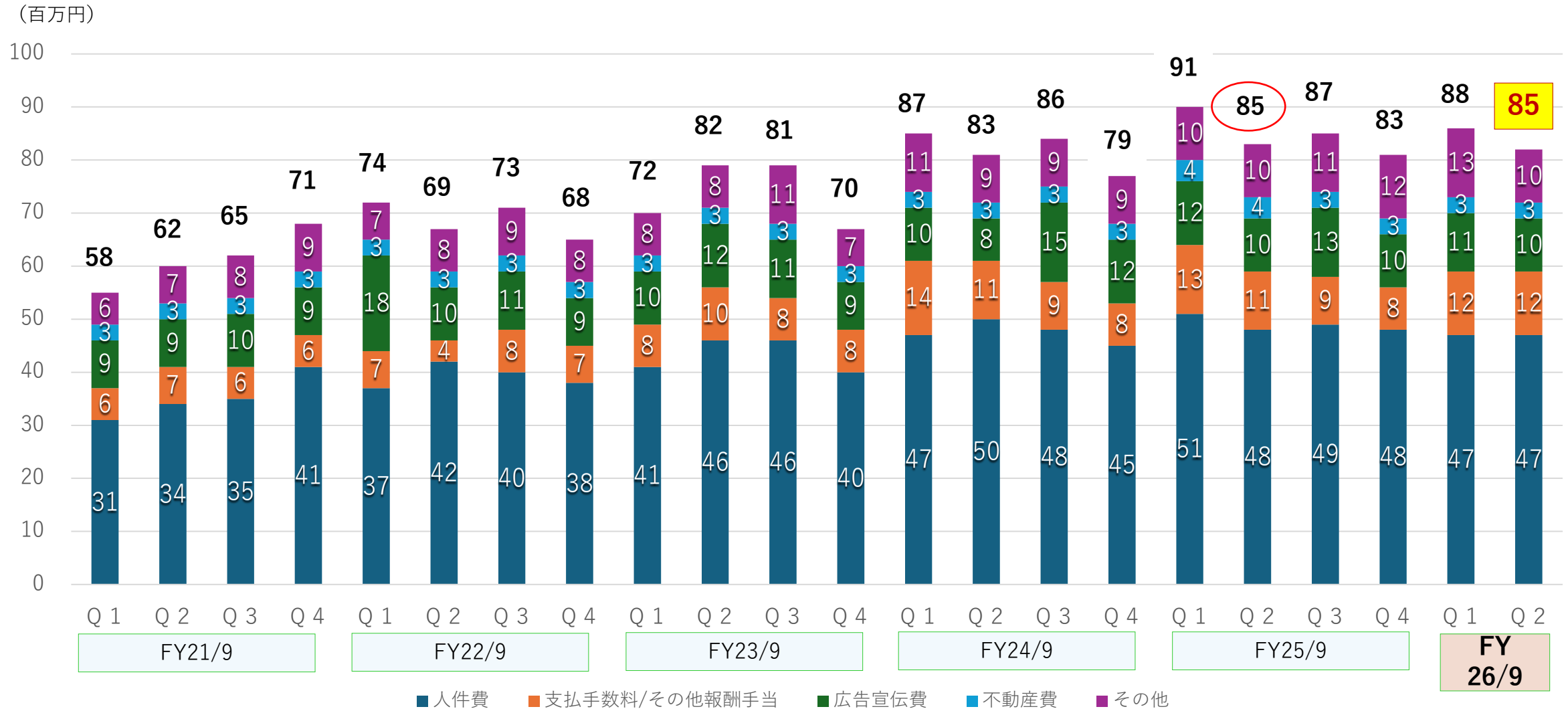
# 売上総利益（四半期）の推移（過年度5ヵ年+当事業年度）

- ✓ 売上高の上昇に売上原価が比例しないため、売上総利益は、每期、前年同四半期比で着実にベースアップしています。
- ✓ 当Q2も前年同四半期を上回り、売上総利益額は四半期ベースで過去最高を実現しています。



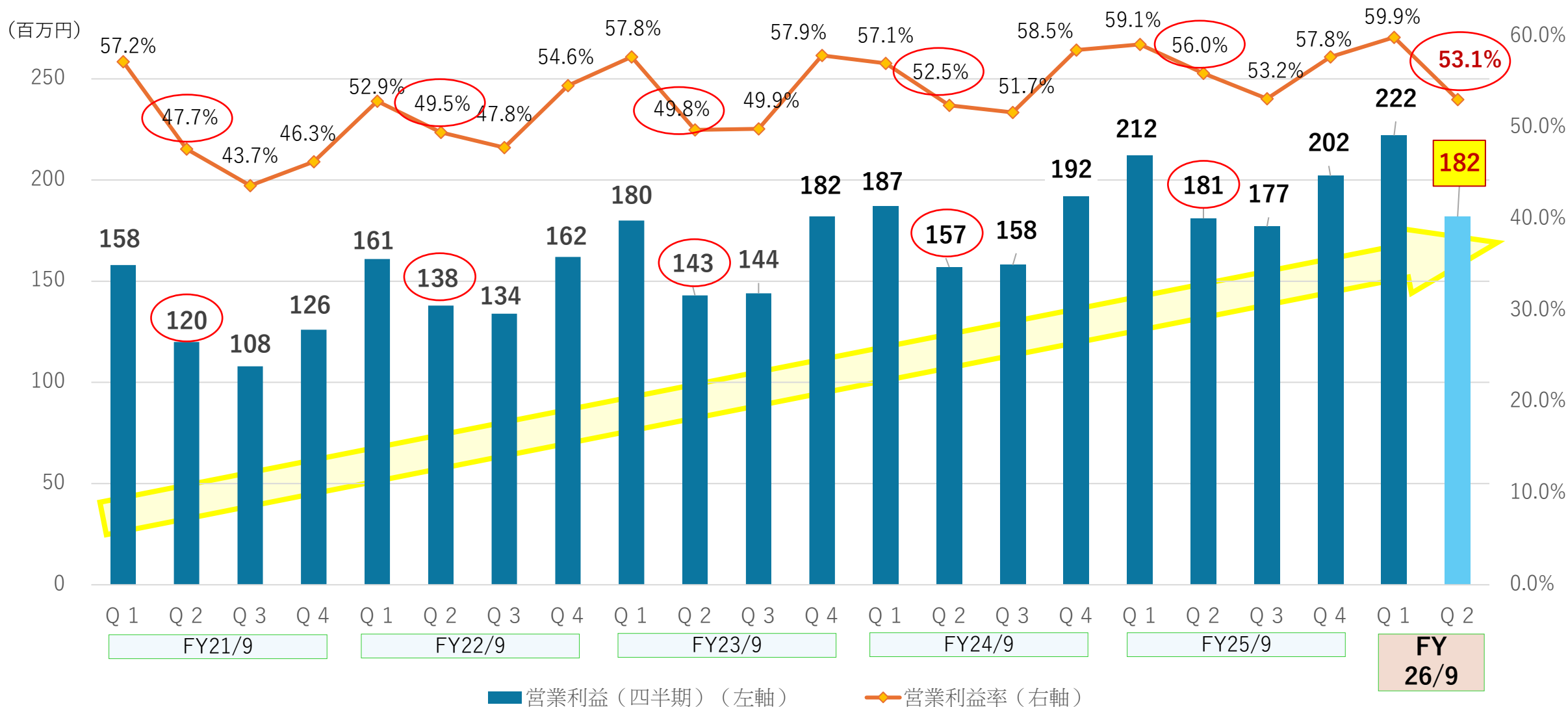
# 販管費（四半期）の推移（過年度5ヵ年+当事業年度）

- ✓ 各分野で値上げの影響はありますが、コスト管理の徹底等の努力もあり前年同四半期とほぼ変わらず着地しています。
- ✓ 人員数の増加と売上高の増加は比例しないビジネスモデルではありますが、当期に数名の採用を予定しています。



# 営業利益（四半期）の推移（過年度5ヵ年＋当期）

- ✓ 当Q2も、前年同四半期を上回り、Q2における四半期ベースでの過去最高の営業利益額を実現しています。
- ✓ 設備投資の影響はあるものの販管費が前年同四半期横ばいで、当Q2でも**53.1%**と、高い営業利益率を維持しました。



貸借対照表

(単位：百万円)	FY24/9末	FY25/9末	FY26/9 q2末
流動資産	3,699	3,232	3,194
現金及び預金	3,570	3,095	3,047
固定資産	284	538	743
有形固定資産	44	39	63
無形固定資産	6	60	133
投資その他資産	233	437	546
資産合計	3,983	3,770	3,937
流動負債	373	390	354
固定負債	61	54	53
負債合計	435	444	407
純資産合計	3,548	3,325	3,530
負債・純資産合計	3,983	3,770	3,937
自己資本比率	89.1%	88.2%	89.6%

キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	FY24/9	FY25/9	FY26/9 q2
営業活動による キャッシュ・フロー	572	588	258
投資活動による キャッシュ・フロー	△206	△271	△217
財務活動による キャッシュ・フロー	△26	△762	△78
現金及び現金同等物の 増減額	338	△445	△38
現金及び現金同等物の 期首残高	3,171	3,510	3,065
現金及び現金同等物の 期末残高	3,510	3,065	3,027

- ✓ 高い自己資本比率（89.6%）を維持
- ✓ CF/Sでは、プラスの営業キャッシュ・フローを生み出す収益モデルを実現できているが、当2Qは主に設備投資、投資有価証券の取得、配当金の支払い等を実施している。

A collage of five diamond-shaped images arranged in a vertical column on the left side of the page. From top to bottom: 1. A cityscape at night with a network of glowing blue lines connecting various points, representing digital infrastructure or data networks. 2. A construction site with a yellow crane and a white drone flying in the sky. 3. A satellite in orbit above Earth, with solar panels extended. 4. A white autonomous vehicle driving on a city street. 5. A yellow excavator working on a construction site.

1 会社概要

2 2026年9月期第2四半期 決算報告

3 通期業績予想

Appendix

4 事業構造

5 ジェノバ5つの強み

6 成長戦略

**変更なし**

F Y 25/9 実績	
(単位：百万円)	
売上高	1,366
売上総利益	1,122
(売上高総利益率)	(82.1%)
営業利益	773
(営業利益率)	(56.6%)
経常利益	782
(経常利益率)	(57.3%)
当期 <sub>(四半期)</sub> 純利益	542
(当期 <sub>(四半期)</sub> 純利益率)	(39.7%)
1株当たり当期 <sub>(四半期)</sub> 純利益	40円83銭

F Y 26/9 計画	
	前期比
<u>1,433</u>	+4.8%
<u>779</u>	+0.7%
<u>793</u>	+1.4%
<u>543</u>	+0.3%
41円07銭	+0.6%

q2 (当期) 実績	
	進捗率
<u>715</u>	49.9%
579	(81.0%)
<u>406</u>	52.1%
	(56.8%)
<u>415</u>	52.3%
	(58.0%)
<u>287</u>	52.9%
	(40.2%)
21円74銭	52.9%

2026年9月期も、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益、全てにおいて**過去最高**を目指しています。

### 売上高

- ✓ 測量分野は堅実な成長
- ✓ ICT土木、IT農業分野は、国の推進施策でもあり、前期以上の増加を計画
- ✓ ドローン活用場面が増加
- ✓ 業務提携先などに行っている実証実験が徐々にリリースされる
- ✓ 新たな業務提携先の模索
- ✓ 新たな利用用途でのリリース

### 営業利益以下

- ✓ 今後1～2年で数名程度の増員を計画
- ✓ それに伴うコスト増は計画に折込み済み

### 期末配当

- ✓ 増配計画：**7円00銭**  
(2025年9月期実績：6円00銭)

A collage of five diamond-shaped images arranged in a vertical column on the left side of the slide. From top to bottom: 1. A cityscape at night with a network of glowing blue lines connecting various points, representing technology or infrastructure. 2. A construction site with a yellow crane and a building under construction. 3. A satellite in space with solar panels, viewed from Earth. 4. A white autonomous vehicle driving on a city street. 5. A yellow excavator working on a construction site.

1 会社概要

2 2026年9月期第2四半期 決算報告

3 通期業績予想

## Appendix

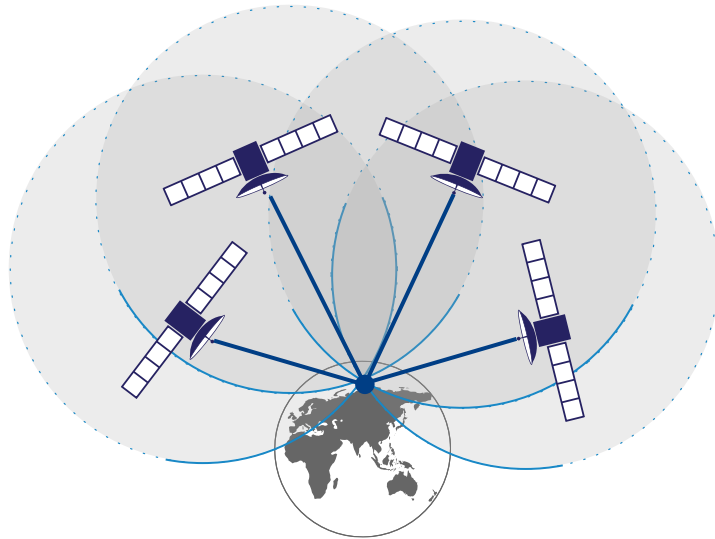
4 事業構造

5 ジェノバ5つの強み

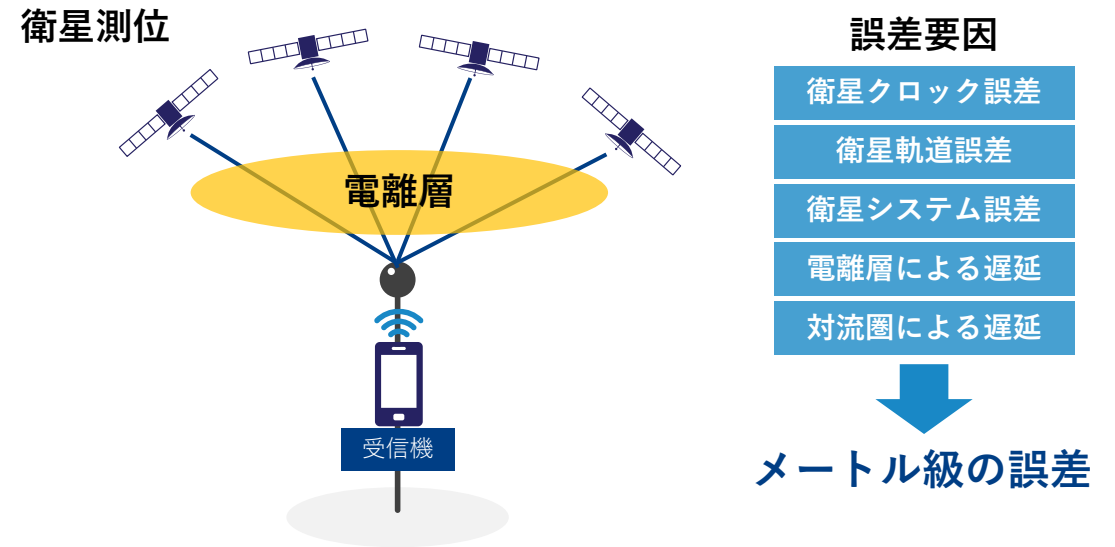
6 成長戦略

# GPSをはじめとする測位衛星システム（GNSS）から、衛星信号を受信・解析することで位置情報が取得できます

4つ以上の測位衛星との位置関係から観測位置を特定



信号発信から受信するまでに様々な誤差要因

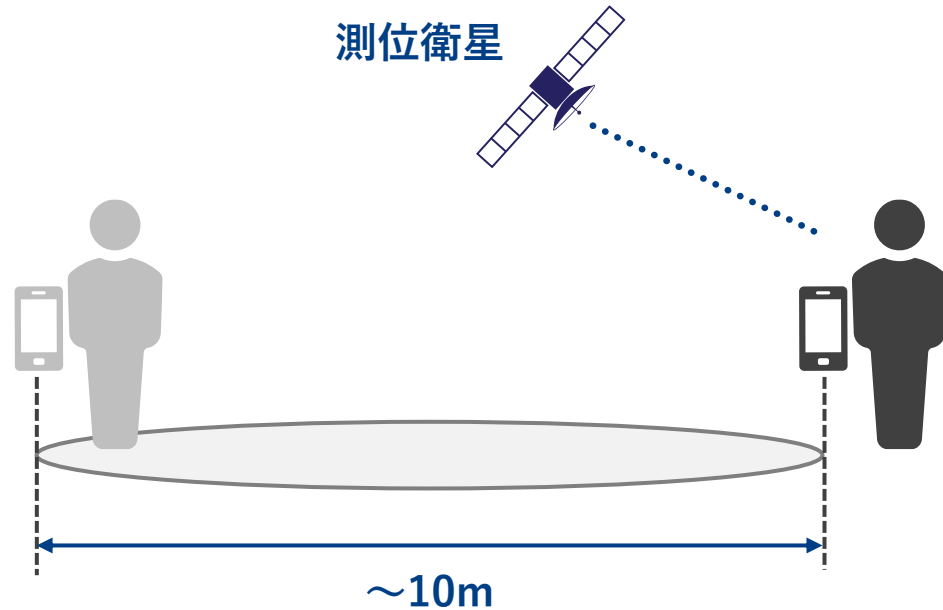


測位衛星の信号だけでは  
メートル級の誤差が生じたまま利用されている

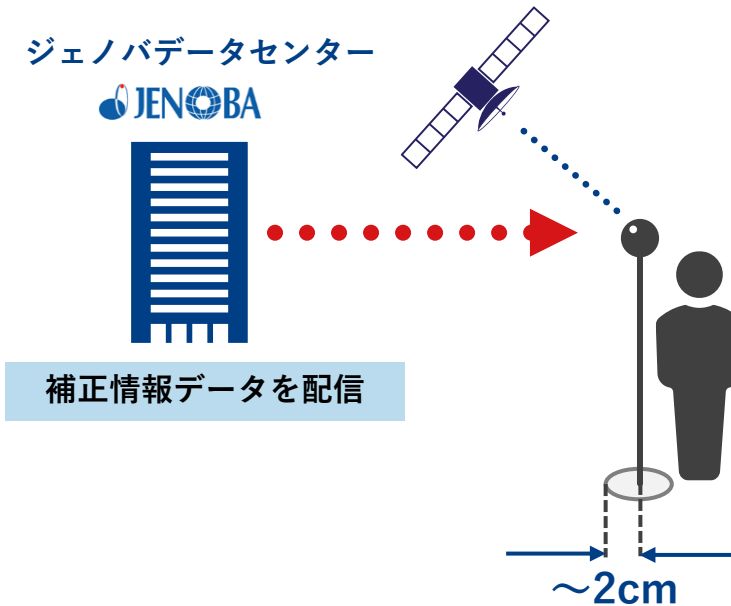


## ジェノバでは衛星測位によるメートル級の誤差を センチメートル級の誤差に補正する配信サービスを行っています

### メートル級の誤差



### センチメートル級の誤差



測位衛星からの信号と、補正情報データを解析し、高精度に位置を求めることができます。

高精度で位置を求められることで、さまざまな業種業務に活用できるようになりました。

# 測位方法のうち、当社が採用する「ネットワーク型RTK」(VRS)では 高精度かつ安定して測位できるため、作業の生産性向上につながります

作業効率 低

作業効率 高

	単独測位	RTK	ネットワーク型RTK (VRS)
	<p>観測者の受信機1台で信号を受信し位置を求める</p> <p>測位衛星</p> <p>観測者 GNSS受信機</p>	<p>基準となる点と観測点、2点同時に観測し基準となる点のデータを基に観測位置を求める(誤差要因をなくす)</p> <p>基準となる点 観測者</p>	<p>複数の基準となる点のデータを基に仮想点を作る※観測点で観測を行い、仮想点のデータを基に観測位置を求める(誤差要因をなくす)</p> <p>補正データ配信</p> <p>基準となる点(電子基準点) 仮想点 観測者</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>※座標が既知である 国土地理院の電子 基準点データを複数 点解析し作成して いるため、より 精度が高い基準と なる</p> </div>
メリット	安価で利用可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ センチメートル級の誤差</li> <li>■ 通信が使用できない場所でも利用可(基準となる点を設置する必要あり)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 基準となる点を<b>設置したり、管理する必要がない</b></li> <li>■ 観測者の受信機1台のみで<b>省コスト化</b></li> <li>■ 基準となる点は仮想のため、台風などの<b>外部環境の影響を受けず高精度を維持</b></li> <li>■ <b>1点でなく複数の基準点を使用しているため測位品質が安定する</b></li> </ul>
デメリット	メートル級の <b>誤差</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 基準となる点の<b>設置と管理が必要</b>(基準となる点の品質が測位精度に影響)</li> <li>■ 2台受信機が必要で<b>コスト高</b></li> <li>■ 基準となる点と観測者の距離が遠いと<b>精度劣化</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 通信環境がないと利用できない</li> <li>■ 基準となる点に囲まれていないエリアは<b>使用できない</b>(一部離島など)</li> </ul>

# 労働人口減少の影響を受ける領域を中心に、 事業活動を通じた社会課題の解決に貢献します



## ジェノバが持つ技術

### 高精度・高品質な補正情報データ

- 電子基準点全点活用と特許技術により、国家座標に整合
- GNSS測位のパイオニアとして蓄積された知見と信頼
- 24時間365日停止しない安定配信

## 社会課題の 解決

生産性向上

担い手不足

労働環境の改善

技術の継承

安全性の確保

災害の  
激甚化・広域化

酷暑による  
労働損失対策

## 価値提供

高精度な補正情報データ配信



## お困りごと(例)

### ■ 建設分野

「限られた期間とコストで施工しなければならないので生産性を上げなければいけない上、熟練技術者の確保も難しい…」

### ■ 農業分野

「人手不足のため広い田畑に少ない人数で作業をしなければならない…」

### ■ 災害対応、防災分野

「災害の状況把握や復旧をしたいが、現地対応は人命に関わるリスクが高い…」

# 高精度位置情報サービスは今後利用がますます拡大します 安心・安全な社会づくりに不可欠な技術となる未来は、すぐ近くまで来ています



建設機械の無人化



農業用機械の無人化



インフラ点検の省力化



産業機器の自動化・自律化

NEW

測量

## 文化財DXに向けた発掘調査での活用

公益社団法人 日本文化財保護協会 様

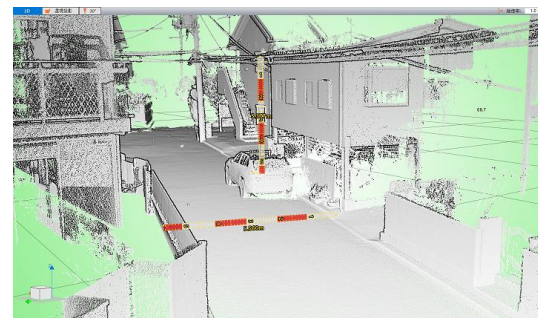


日本文化財保護協会様は、埋蔵文化財の発掘調査、出土遺物や堆積物の科学分析、歴史的建造物や記念品、出土品の修復・復元・保存などを担う民間調査機関によって設立された日本初の全国組織です。国民共有の財産である埋蔵文化財を保護するための様々な活動などを行っていますが、少子高齢化により担い手不足が深刻化し、デジタル技術を導入して効率的に発掘調査を進める必要性から、単にデジタルデータで調査結果を残すだけでなく、取得から保存・活用までを体系的に最適化し、行政と民間が協業できる「文化財DX」を推進しています。従来、発掘場所の特定や発掘後の遺物の位置取得は、トータルステーションやメジャーなどの測量機器を用いて専門家が行っていましたが、それをタブレット端末に3次元スキャナとGNSS受信機を接続して利用するハンディスキャナを用いて観測を実施し、位置情報の取得には当社のネットワーク型RTKを使用し、トータルステーションによる位置取得と比較して遜色がないことを確認したことで導入を決定いたしました。ハンディスキャナを複数台用意し、複数人で遺構等の点群データを取得することで、短時間で現場計測が可能となり、各人のデータを集約して3次元点群モデルを作成します。結果、発掘調査の納品物は2次元の図面ですが、3次元モデルから2次元図面を出力することで対応し、また、デジタルデータを活用することで、現地でのデータ取得については従来の手法に比べて1/2～1/3の時間短縮がはかられています。従来の発掘調査では、専門の計測員が遺構等の位置を計測し、写真撮影や手書図面制作を行っていましたが、3次元スキャナを導入することで、専門の計測員でなくても現況の位置と状況を正確に記録でき、大幅な省力化が可能となりました。今後は、取得したデジタルデータを単なる発掘調査結果として利用するだけでなく、データを標準化し、様々な分野で利活用できるように整備を進めています。当社の補正情報を用いた観測位置は国家座標に準拠しているため、発掘調査結果を現行地図と容易に整合でき、データ活用の幅が広がっています。

## 測量・土地家屋調査（建築）

### S L A M活用による用地現況調査の効率化

土地家屋調査士 疋田敬之事務所 様

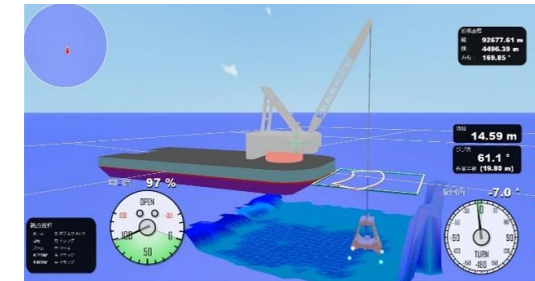


疋田敬之事務所様は、これまではトータルステーションで計測してきましたが、以前から活用してきたネットワーク型RTKによる測位に加え、最近のSLAM技術を活用することで効率的に現況調査を行えることが実現いたしました。現況調査にGNSS測量機器と手持ちLiDARスキャナーを導入し、写真のように手持ちで周辺を歩くだけで周囲の状況をスキャンすることができ、スキャンデータをソフトウェアで解析することでSLAMデータを作成することが可能です。建物の高さなどこれまでは簡単に取得できなかった情報が簡単に取得できることや、一度現場でSLAMデータを作成してしまえば、仮に計測漏れがあってもSLAMデータから取得できるため、従前の計測に比べ大幅に生産性が向上し、LiDARスキャナーとネットワーク型RTKを組み合わせることで、効率化することができました。

## 土木 | C T 施工

### ネットワーク型RTKを活用したICT浚渫工について

株式会社若港様



株式会社若港様は、長年、関門航路の浚渫工事を行っておられます。浚渫船の位置、海底を掘削するグラブの投入位置は、GNSSによる位置取得が重要な役割となります。しかし、正確な位置情報の取得にあたり、自社で基準局を設置したり、他社補正情報を使用されたりしておりましたが、場所によっては受信状況が思わしくなく位置決め時間に時間を要し、施工効率が低下する課題が発生していました。そこでGNSSによる位置取得にネットワーク型RTKを採用することで、安定かつ精度の高い位置情報が素早く取得することが可能になりました。位置情報は国家座標のため、当社のような国家座標に対応した配信情報は必須です。自社で基準点設置・管理を行わず、場所を問わず、常時センチメートル級の位置情報が取得できることから、位置情報を取得するための手数も減り、かつ誤差の少ない正確な施工ができることで、手直しが激減し、高い生産性を実現することができました。

## 土木 ICT 施工

### 建設機械操作の遠隔操縦による 無人化施工体験を実施

国土交通省 中国地方整備局 中国技術事務所様



中国地方整備局中国技術事務所様では、インフラ整備・管理や公共サービスを行う現場における生産性向上や働き方改革を推進するため、デジタル技術を活用した調査・計画・設計や施工管理、監督検査などに対応できる人材を育成に注力されています。

育成コンテンツの中で重機の遠隔操作の体験ができ、当社サービスは、マシンガイダンスに利用されています。マシンガイダンスは実際の現場の状況と三次元設計図の差分を画面表示し、画面を見ながら作業することで現場に目印をつけることなく、設定通り施工を行うことができます。

## 測量

### 鉄道分野MMS (Mobile Mapping System) 技術への適用

アジア航測株式会社様

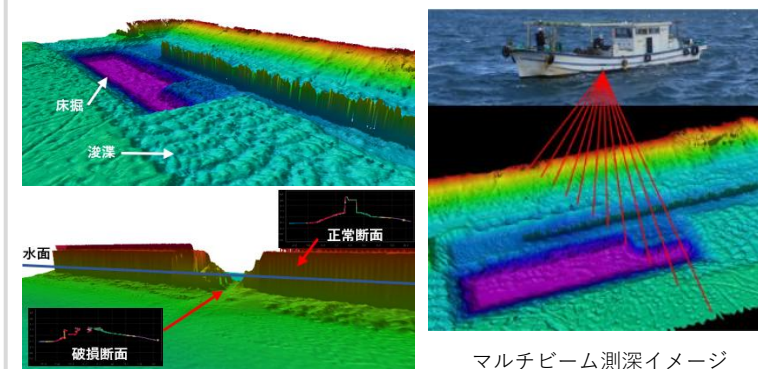


アジア航測様とJR西日本様との共同開発成果を基に構築された鉄道MMS計測・解析・システムのサービス「RaiLis」では、鉄道事業者向けに最先端の3次元空間情報計測・解析技術を提供しています。位置情報解析にあたり、当社の後処理データサービスが利用されています。本システムの導入により、線路周辺の3次元情報を効率良く取得でき、さらには、線路内立入作業時間の短縮、省力化による保安度の向上、現場状況把握など、高品質で効率的な運用業務を行うことが可能。調査・測定作業を効率化・高精度化することで、鉄道事業が抱える様々な課題解決に貢献しております。

## 測量

### 海洋調査におけるネットワーク型RTKの活用

日本ジタン株式会社様



マルチビーム測深イメージ

日本ジタン様は海上・陸上の測量をはじめ、海洋調査等も行っています。業務効率化やデジタル化のニーズから海底面を3次元観測し、竣工前の海底3次元モデルを使用することで、断面図の自動作成、土量の自動計算、現場の進捗確認などを可能としています。

観測には「マルチビーム測深機」を使用した観測にて、当社のネットワーク型RTKが利用されています。水中部はソナー、水上部にGNSSアンテナを使用しています。また、当社サービスは、洋上観測にて港湾に基準局の設置管理が不要で安定した観測ができることから、観測業務の効率化にも寄与しています。

## 測量

### MMSを活用した都市空間 3Dモデル化

クモノスコーポレーション様



MMS（モバイルマッピングシステム）は、車両等で移動しながら高精度な3次元計測を行うシステムです。車両や船舶、鉄道等の移動体に3Dレーザースキャナを搭載して計測することにより、広範囲を効率良く高精度・高密度に計測が可能です。

観測結果の補正に当社後処理データを使用しており、国家座標に準拠し、取得された3次元点群データは、地図情報レベル1/500にも対応可能な精度が可能となります。

## IT農業

### 草地造成改良作業のスマート化

公益財団法人 北海道農業公社様



草地造成改良作業として、耕起、土壌改良材散布等を行っておりますが、昨今の人手不足の問題を背景にスマート化をすすめております。いずれの作業もトラクターをはじめとした農機で行うのですが、農機の操縦に熟練度が求められます。スマート化した農機の作業は、熟練ドライバーが実施した作業成果と遜色なく、業務の人手不足の問題解消に寄与することができています。

## 土木ICT施工

### 3DMCマシンコントロール機 使用による土工作業の効率化

湯澤工業株式会社様



GNSSと3D-MCを活用することで設計データ通りに高精度かつ効率的に施工を行うことができました。また、掘削補助員を必要とせず丁張りなどの敷設を減らし熟練者のオペレーターでなくても、モニターを確認しながら操作できることにより高品質かつ安全に施工ができるようになりました。また、設計データ位置と現場位置の較差が重要になるため、国家座標に対応し安定している当社の配信がICT施工においてとても有用です。

## エンターテイメント

### 自動音声ガイド実証実験

KDDI様、沖縄セルラーアグリ&マルシェ様、motti西表島トレッキングエコツアー様、竹盛旅館様、沖縄県竹富町様



高精度GNSS機器測位用のアンテナが組み込まれたデバイスを観光客に2つ装着してもらい、自動音声ガイドを体験頂きました。

当社のサービスにより、高精度の位置情報だけではなく、観光客の体の向きを判定できることで、見ているものに合わせた観光案内が可能です。精度の高い非対面型ガイドにより没入感を向上させ、観光体験の満足度向上を実現しました。また、観光客増加に伴う案内人不足問題の解決にも期待をされています。

A collage of five diamond-shaped images arranged in a vertical column on the left side of the slide. From top to bottom: 1. A cityscape at night with glowing blue lines representing a network or data flow. 2. A construction site with a crane and a yellow drone flying in the sky. 3. A satellite in orbit above Earth's cloud-covered surface. 4. A white autonomous vehicle driving on a city street. 5. A yellow excavator working on a construction site.

1 会社概要

2 2026年9月期第2四半期 決算報告

3 通期業績予想

## Appendix

4 事業構造

5 ジェノバ5つの強み

6 成長戦略

## Point 1 独自の高精度な位置情報補正・解析技術

### 長年にわたり蓄積された高精度位置情報の配信ノウハウ

課題 配信精度が不安定、データ遅延

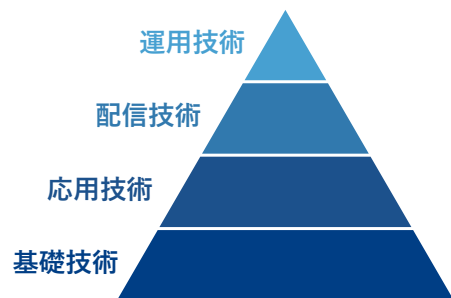
原因 安定配信のためのノウハウ不足



解決

### 長年配信システムメーカーとの情報交換と知見の積上げ

多くの電子基準点をもつ日本におけるサービス構築は世界に類を見ず、メーカーとの長年密な情報交換により実現することができました。同サービスを20年以上運用してきた実績が知見となり、安定配信に寄与しています。



- サーバーの構成比
- ネットワーク関連のシステム構成ノウハウ
- 大規模災害後の運用ノウハウ など

### 最寄りの電子基準点成果に整合 (特許第5832050号)

課題 地図に整合しない  
公共作業では国家座標使用が必須

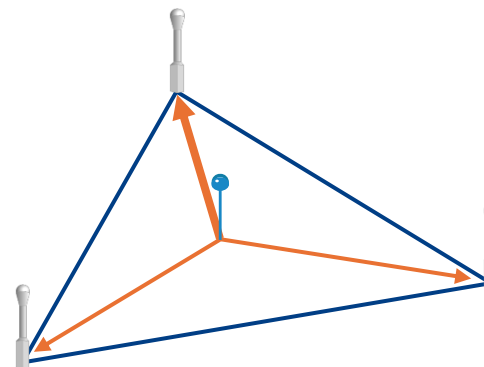
原因 日本周辺の地殻変動により 位置が常にずれる



解決

### 地殻変動を考慮した補正情報の配信

全ての電子基準点の中から観測位置に最寄りの3点を自動的に選定し、国土地理院が公表している最新座標値に整合するよう、補正データ配信を行います。



- リアルタイムに観測される電子基準点の今期座標（現時点の座標）を国家座標（地図上の座標）に変換して整合させる技術

## Point 2 安定的なデータ提供体制

### 補正データ生成のための電子基準点の高密度化

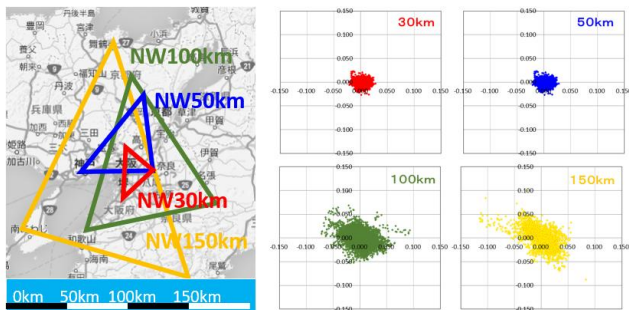
- 課題 配信データ品質の不安定、精度の不安定
- 原因 電子基準点間の距離の問題と電離層によるデータ遅延の影響



解決

### 電子基準点全点使用による高密度化

国土地理院の設置する電子基準点（約1,300点）を全点使用することで、基準点の間隔を密にし、基準点のうち運用に適さない点を省くことで安定した高品質データの配信を実現しています。



### 配信システムの冗長化と安定配信

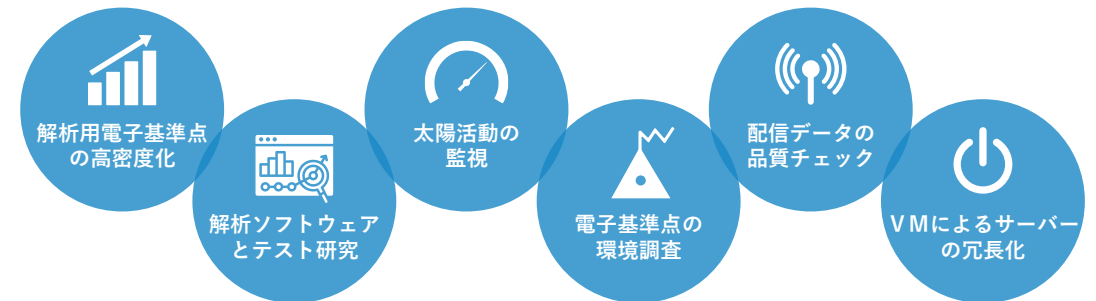
- 課題 配信システムの停止、データ配信の遅延
- 原因 配信システムのデータ量増大・サーバー容量不足・ネットワーク不具合



解決

### 配信インフラとデータ品質の徹底管理

24時間365日サービスを提供するために、配信サーバーなどのインフラについてはリアルタイム監視を行っており、万が一に備えて冗長化しております。また配信データについても、品質低下につながる要素について常時監視することで、安定したサービスを提供しております。



## Point 3 強固な取引基盤

- 国土地理院による基準点データの民間開放当初から、20年以上にわたる実績を有しています
- インフラに係わる企業の測量・調査の現場で多く採用され、精度の安定性・信頼性において高い評価
- 期間に決まりがあるプロジェクト・研究・実証実験等を除き、解約数の少なさに特長があります



- when it has to be right



**PENTAX**

TI アサヒ株式会社

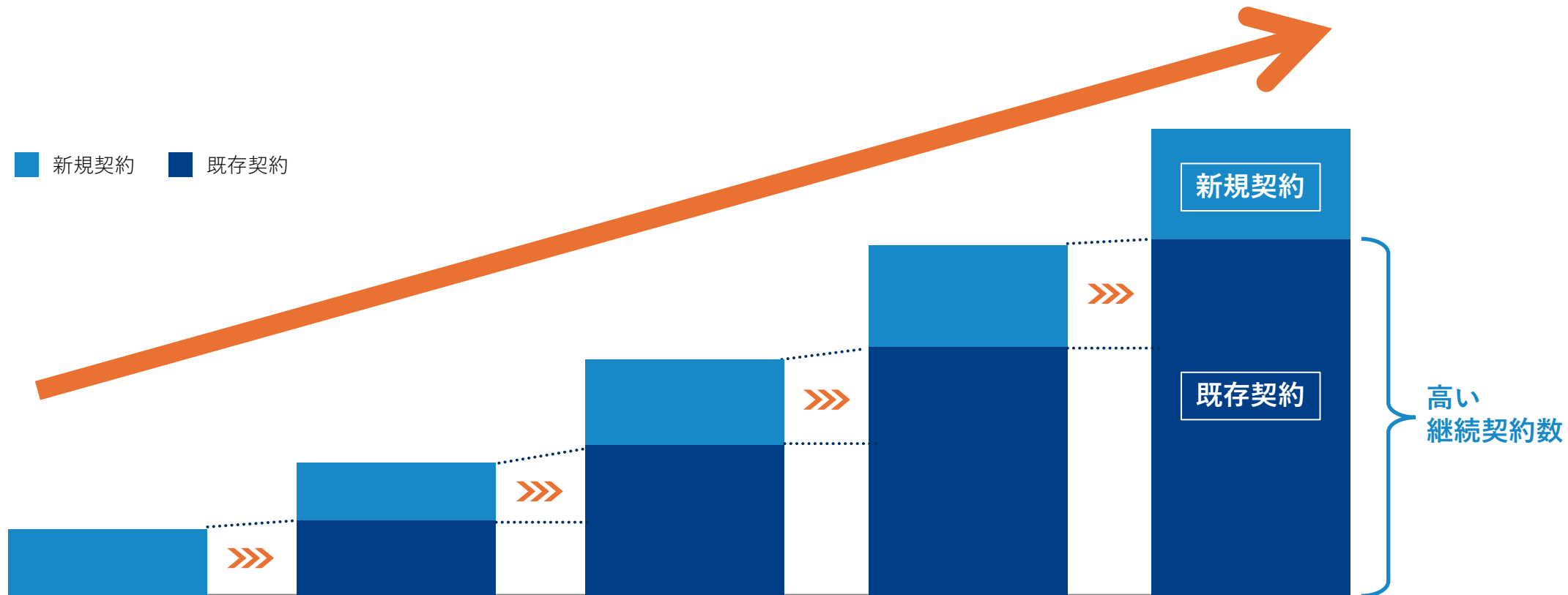


**ZENRIN**

契約数 **9,585** ID  
(2025年12月末)

## Point 4 優れたストック性と費用構造がもたらす高い収益性

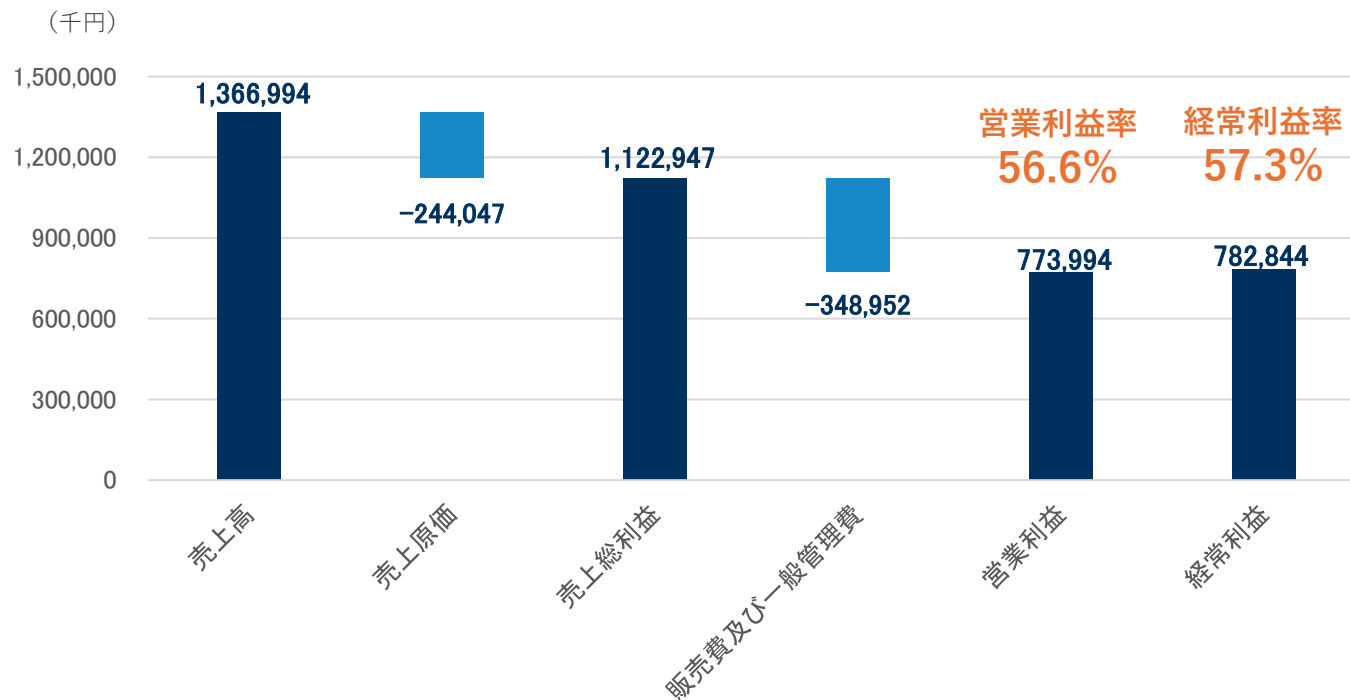
- 新規契約が継続して積み上がり、既存契約が増加するため、安定した売り上げ成長が可能です
- ドローン、IT農業等でのさらなる拡大や、新規領域でのサービス展開を進め、新規契約の増加スピード拡大を狙います



## Point 4 優れたストック性と費用構造がもたらす高い収益性

- 電子基準点のデータ購入料や解析システムの利用料・メンテナンス料等は定額であり、データ販売の売上増加に対して費用は膨らみにくくなっています※
- 2025年9月期（前事業年度）の営業利益率は56.6%、経常利益率は57.3%

2025年9月期（前事業年度）の業績



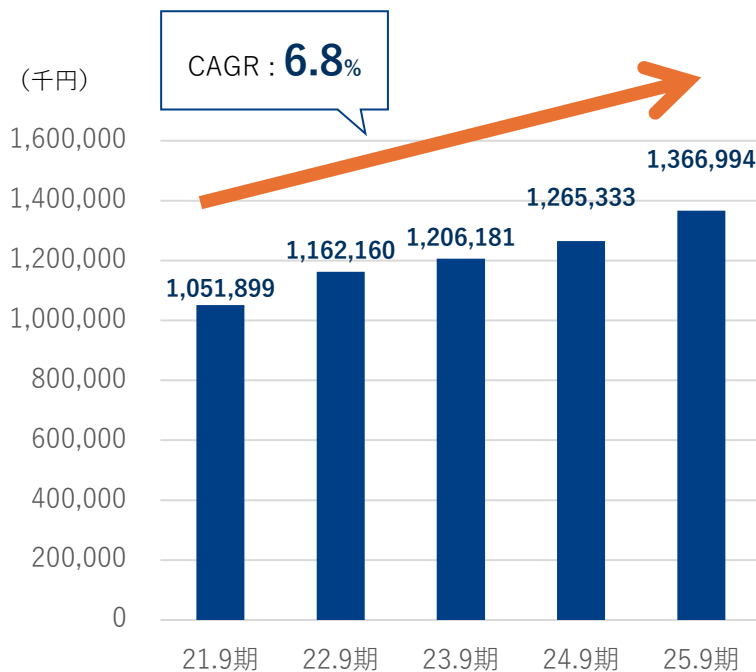
売上原価に関しては、今後においても配信に必要な原価の上昇幅が極めて低い構造となっており、安定した売上を実現していくことで、継続的に高い利益率で各段階の利益を生み出すことが可能です。

※サーバーの増設等に伴い、減価償却費用が大きく増加することはあります

## Point 5 継続的な成長実績

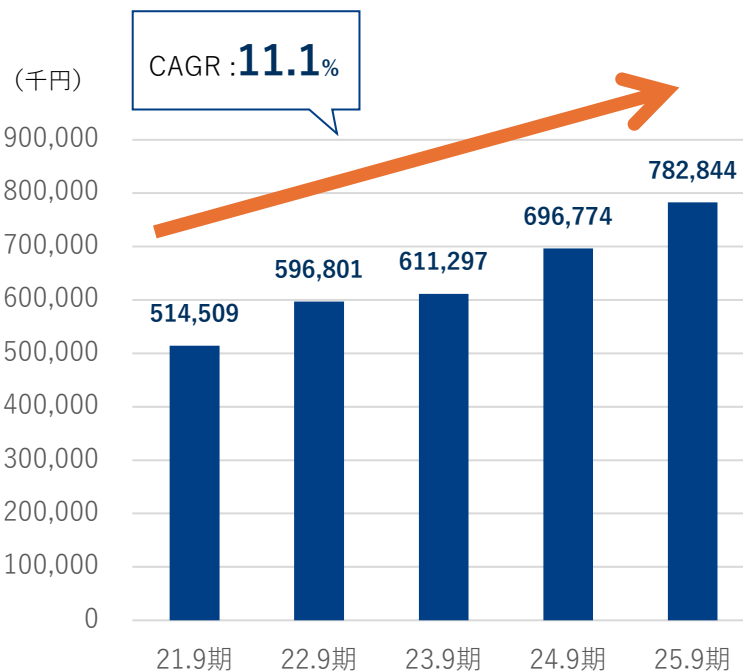
- 高精度かつ安定的な補正データという信頼を元に、継続的な成長を実現しております。
- また、当社はKPIを契約件数の増加としており、CAGR：6.0%を実現しております。

### 売上高



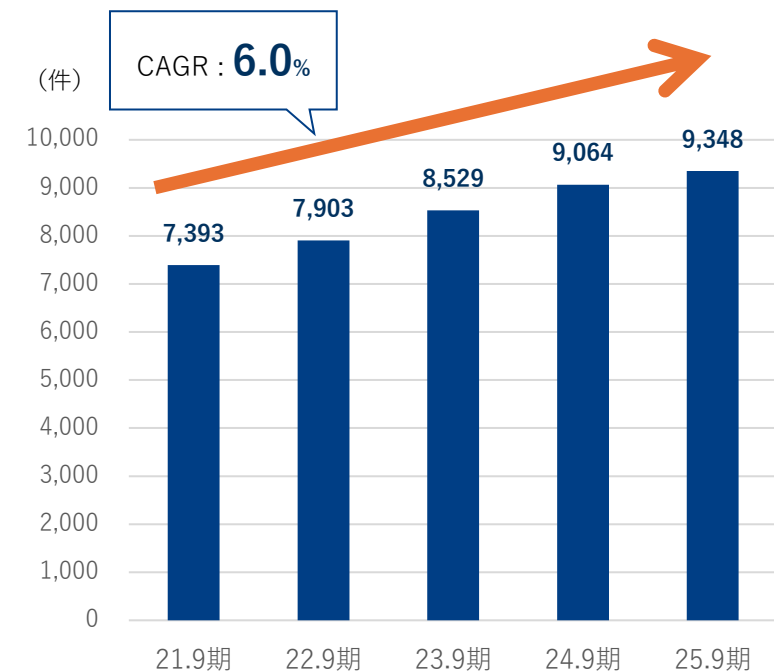
売上高は21.9期比で+30.0%成長

### 経常利益



経常利益は21.9期比で+52.2%成長

### 契約件数



契約件数は21.9期比で+26.4%成長

A collage of five diamond-shaped images on the left side of the page. From top to bottom: 1. A cityscape with a network of glowing blue lines representing connectivity. 2. A construction site with cranes and a yellow crane. 3. A satellite in orbit above Earth. 4. A white autonomous vehicle on a city street. 5. A yellow excavator at a construction site.

1 会社概要

2 2026年9月期第2四半期 決算報告

3 通期業績予想

## Appendix

4 事業構造

5 ジェノバ5つの強み

6 成長戦略

# 2026年9月期には、売上高14.33億円、経常利益7.93億円を目指します

圧倒的な配信データ品質の維持向上・新領域へ積極的な展開を進めていきます

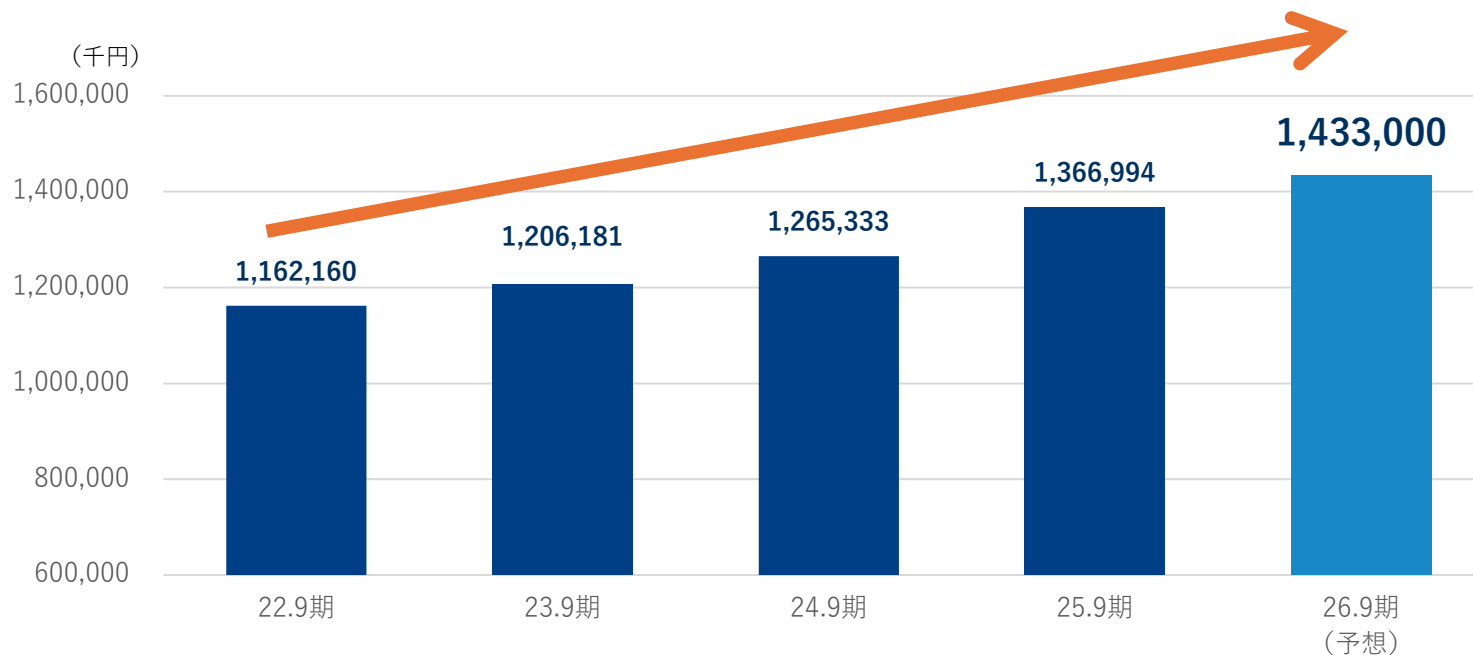
## ジェノバが持つ経営資源

- 高精度位置情報補正・配信技術 (特許第5832050号)
- 強固な顧客基盤：9,585 ID (2025年12月末)
- 健全な財務基盤

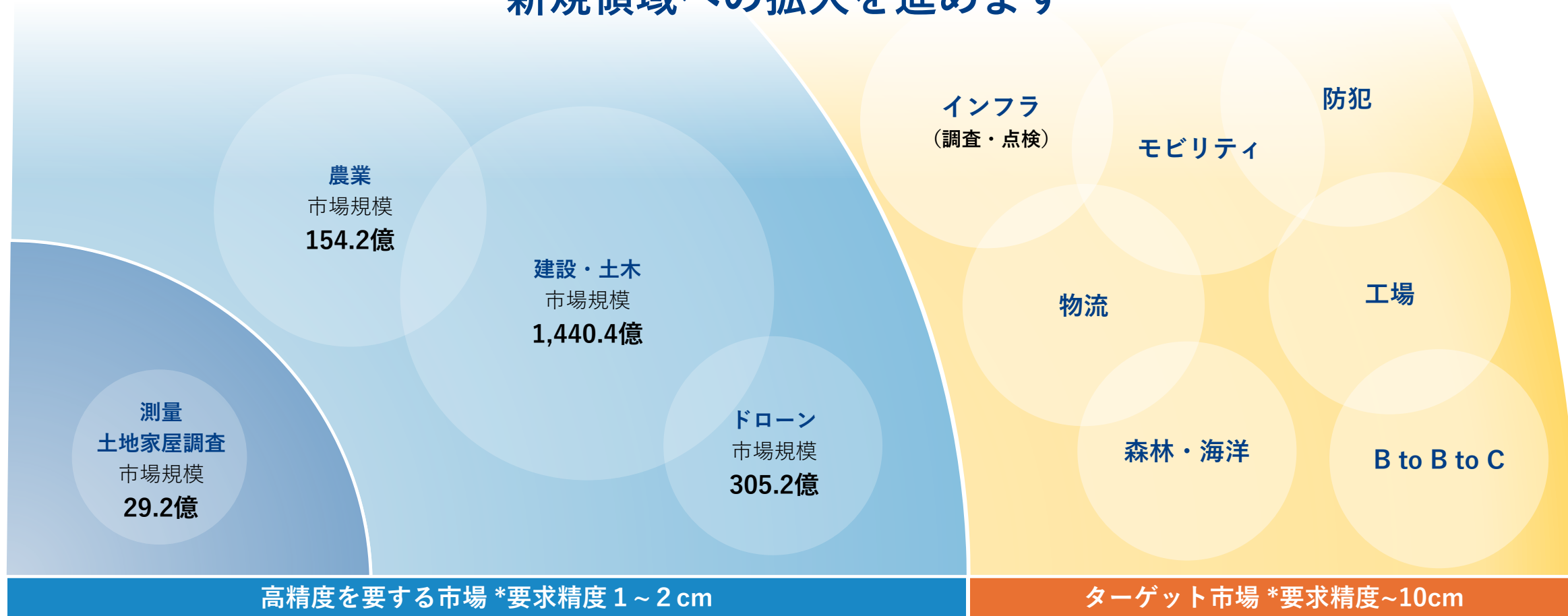


## 成長ドライバー

- 無人化・自動化・効率化の需要の高まり
- 新規事業モデル創出とシステム基盤の構築
- ビジネスパートナーとの協働



# 長年の実績を持つ測量・調査領域の安定的伸長に加え、 新規領域への拡大を進めます



高精度を要する市場 \*要求精度 1~2 cm

ターゲット市場 \*要求精度 ~10cm

使用機材の多様化 (用途・性能・価格)  
作業生産性向上のニーズを受けて拡大

省人化・自動化ニーズを捉え  
新規領域への展開を見込む

# 自動化・無人化の実現に向けた市場の流れを捉え、 高精度位置情報ソリューションが求められる領域はさらに拡大が期待されます



キーワード1  
**i-Construction推進**

国土交通省が「i-Construction2.0 ～建設現場のオートメーション化～」を発表。2040年度までに省人化3割・生産性1.5倍を目標に、オートメーション化による効率化・経営環境改善・安全性の確保が急ピッチで推進される。

キーワード2  
**スマート農業**

2024年10月より「スマート農業技術活用促進法」が施行。農業者の減少に対応し、農業の生産性の向上を図るため、スマート農業技術を活用した生産性の向上が推進される。

キーワード3  
**ドローン(無人航空機)**

ECの普及で宅配ニーズが増加し、物流領域におけるドライバー不足が常態化。ドローンによる新たな運送技術が期待されている。

キーワード4  
**自動運転**

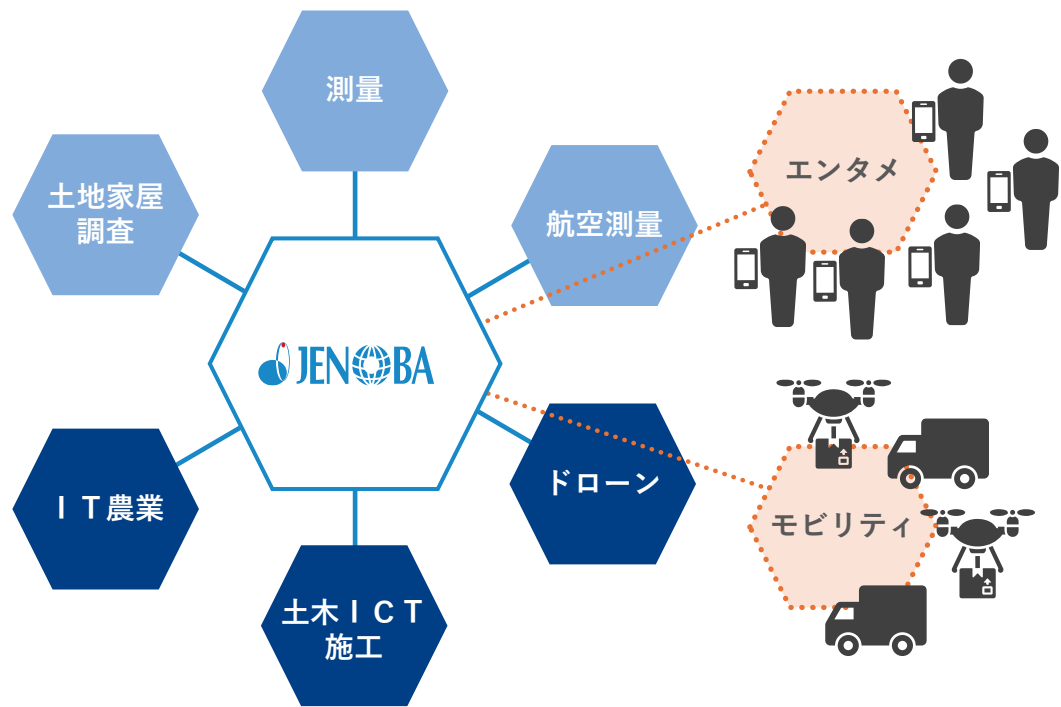
日本政府は「デジタル田園都市国家構想」の一環として、2025年度をめぐりに国内50か所、2027年度中には100ヵ所以上で無人自動運転移動サービスの実現を目指している。安全性向上のため、高精度な位置情報サービスニーズはさらに高まるが見込まれる。



**高精度位置情報配信サービス**

国土地理院の電子基準点を活用・誤差数cm級・24時間365日安定配信

# ジェノバのサービスがさまざまな位置活用サービスのインフラとなり 利用用途が拡大していくことで契約数の増加に直結します



高精度位置情報プラットフォームとしての利用用途 拡大  
↓  
ユーザー増加 = 契約数増加 に直結

## 新しいユーザー・新しい利用用途の開拓



**営業活動の強化**  
全国の取次店やメーカーとのリレーションを強化し新しいユーザーを獲得



**ビジネスパートナーとの連携**  
メーカー新商品とのパッケージ販売や、ビジネスパートナーと協業による新領域開拓



**サービスの周知**  
展示会やWEBサイトを通じてジェノバのサービスを周知し、新規用途ユーザーを発掘します。

## 新領域での利用を支援するサポート構築



**多様なニーズに応えるコンサルティング力**  
オーダーメイド的的案件に対応し、提案や新領域の実証実験を支援



**顧客へのサポート体制の充実**  
ユーザーが安定・安心してご利用いただくため、測位状況の確認、サポート

# KDDI社と業務提携契約を締結済み 新たな業務提携先やM&Aによる事業拡大も視野にしています



KDDI社との連携によるドローン市場営業強化  
多数の実証実験を進め新しい利用方法について検討中

## 実証実験例

### ドローン測量



### ドローンを利用した森林資源量調査

ドローンで撮影した空撮画像を分析することで森林資源量を分析。林業における調査の業務効率化が期待される。

当社サービスの導入により位置精度が高い画像で撮影可能となり、データの効率的な作成に寄与することを確認。

### ドローン配送



### ドローンによるデリバリーサービス

ドローンの目視外飛行による商品運搬を実現。当社サービスの導入により地理情報と位置情報の正確なマッチングが可能。正確な運行管理・飛行ルート巡航を実現したことで全国に先駆けて運用が開始。

### MaaS※



### 路線バス運賃自動計算・キャッシュレス化

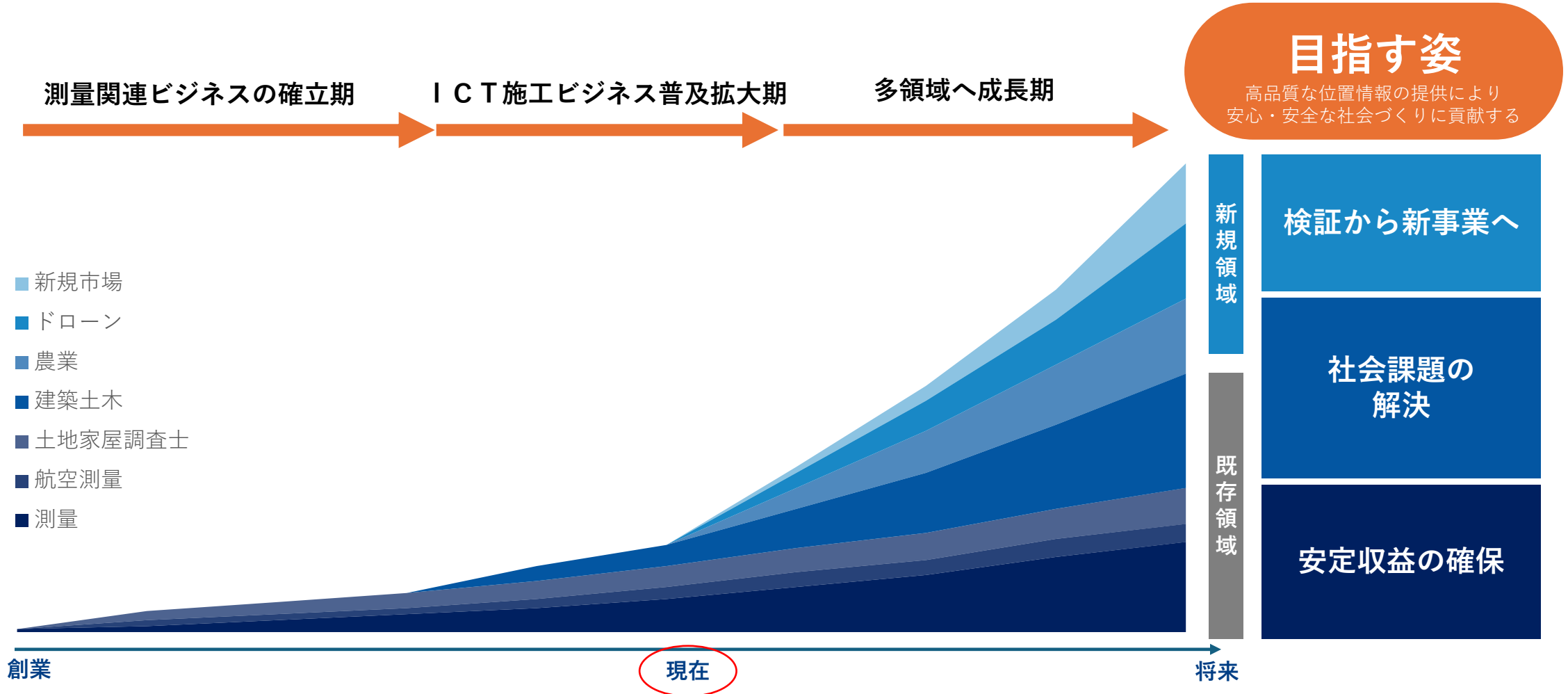
バスの位置情報から、運賃の自動計算およびキャッシュレス決済サービスを実現。当社のリアルタイムで安定した高精度位置情報の提供により、正しい運賃計算結果を得ることを確認。

※MaaS：Mobility as a Service。複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス



M&Aについても計画中

# 自動化・無人化の時流を捉え、土木建築領域・IT農業領域の伸長に注力しながら、ドローン領域を始めとした新規領域開拓を積極的に進めていきます



# 当社ウェブサイトでは、サービス内容や活用事例の他、 独自技術の理解に役立つコラム、IR情報を掲載しております。



当社ウェブサイト

会社案内映像

技術コラム・メールマガジンバックナンバーを公開

**2024年4月号「ネットワーク型RTKとは」**

GNSS測位で高い精度で位置情報を取得できるRTK方式ですが、ネットワーク型RTK方式と混同しがちです。まずはRTK方式について、ご説明いたします。

- RTK方式とは  
固定観測局から、その地点の位置座標と観測情報をインターネット回線や無線を利用して移動観測局に送信し、移動局では送られてくる固定局の情報と自局の観測情報を利用して即座に移動局に於ける位置情報を求める方式です。
- ネットワーク型RTKとは  
上記RTK方式は単一固定局の位置座標と観測情報ですが、ネットワーク型RTKは複数の固定局情報で生成されたデータを、移動観測局に送信します。方法もVRS方式とEKP方式があります。

ネットワーク型RTKについて、国土地理院より発行している測量業務の業務規程（作業規程の準則）にて、以下のように定められています。（抜粋）

“ネットワーク型RTK法は、位置情報サービス事業者（国土地理院の電子基準点網の観測データ配信を受けている者、又は3点以上の電子基準点を基に、測量に利用できる形式でデータを配信している者をいう。以下同じ。）で算出された補正データ等又は面補正/ラメータを、携帯電話等の通信回線を介して移動局で受信すると同時に、移動局でGNSS衛星からの信号を受信し、移動局側において即時に解析処理を行って位置を求める。”



株式会社ジェノバ  
(証券コード：5570)

IRに関するお問合せ：経営企画室



[support-ir@jenoba.jp](mailto:support-ir@jenoba.jp)

本資料の作成に当たり、当社は当社が入手可能な統計等第三者情報についての正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、現時点の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその達成を約束するものではありません。当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化やお客様のニーズ及び嗜好の変化、他社との競合、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きく差異が発生する可能性があります。

決算短信による決算発表は、適時開示の要請に基づき行われるものであり、決算短信の公表時点では監査報告書は未受領となっております。

本資料は、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資に際しては、投資家ご自身のご判断において行われますようお願いいたします。